

先の 10 月 19 日(日)に行われた平成 20 年秋の情報処理技術者試験について、先月発表された基本情報 / 初級シスアド試験を除く、7 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、プロジェクトマネージャ試験の合格発表コメントをお知らせします。

プロジェクトマネージャ試験(PM)

[平成 20 年秋期のプロジェクトマネージャ試験 統計情報]

応募者	14,610 人
受験者	8,741 人
合格者	1,061 人
合格率	12.1%

現行の試験制度最後になる今回の平成 20 年秋試験では、昨年同時期の平成 19 年秋の試験に比べ応募者が若干増加しました。合格率は前回に続いて高く、今までで最も高い 12.1%でした。今回の試験の傾向や特徴をまとめると、次のようになります。

[午前問題] AN/PM/AE 共通問題

・過去問題の比率は約 7 割でした。従来に比べてソフトウェア開発技術者の過去問題がたくさんありました。他の試験との重複出題も多く、上級シスアド試験とは 55 問中 36 問が同じ問題でした。難しい用語に関する出題もありましたが、全体には従来どおりのレベルで解きやすかったといえます。

・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

問 3 実行中のアプリケーション数が最も多いサーバ

問 7 ロードバランサの基本機能

問 10 リポジトリのチェックイン、チェックアウト

問 25 SLA の項目として ITIL が推奨するもの

問 29 Web コンテンツの情報アクセシビリティへの配慮

問 35 変更管理の管理策

問 38 共通フレーム 2007 (SLCP-JCF 2007) の目的

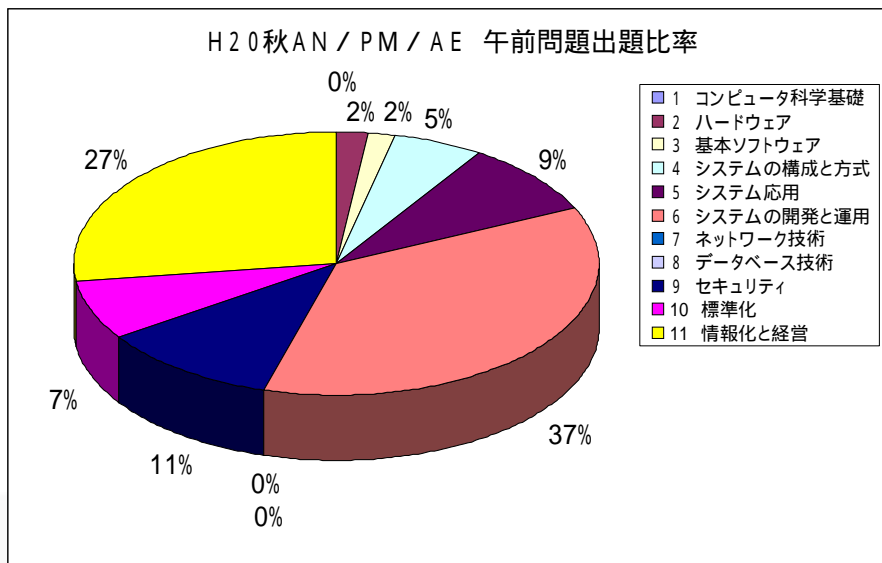
問 39 JIS Q 27002 : 2006 の説明

問 46 ソフトウェア制作費の無形固定資産への計上

問 47 税効果会計

問 55 電子申請の特徴

平成 20 年秋期のプロジェクトマネージャ試験 午前問題出題比率



(午後問題)

・午後 問題の出題分野とテーマは次のとおりで、問1の EVM に関しては以前にも出題されたことがある内容です。全体の難易度としては例年並みであったと思われます。

- 問1 進捗管理 (EVM)
- 問2 新規機能の追加開発
- 問3 保守サービス管理システムの開発プロジェクト
- 問4 システムの移行

・午後 問題の出題分野とテーマは次のとおりです。例年に比べ、論述内容を制限する内容が少なく、自由に記述できる部分が多かったといえます。その点で解答しやすい問題だったといえます。

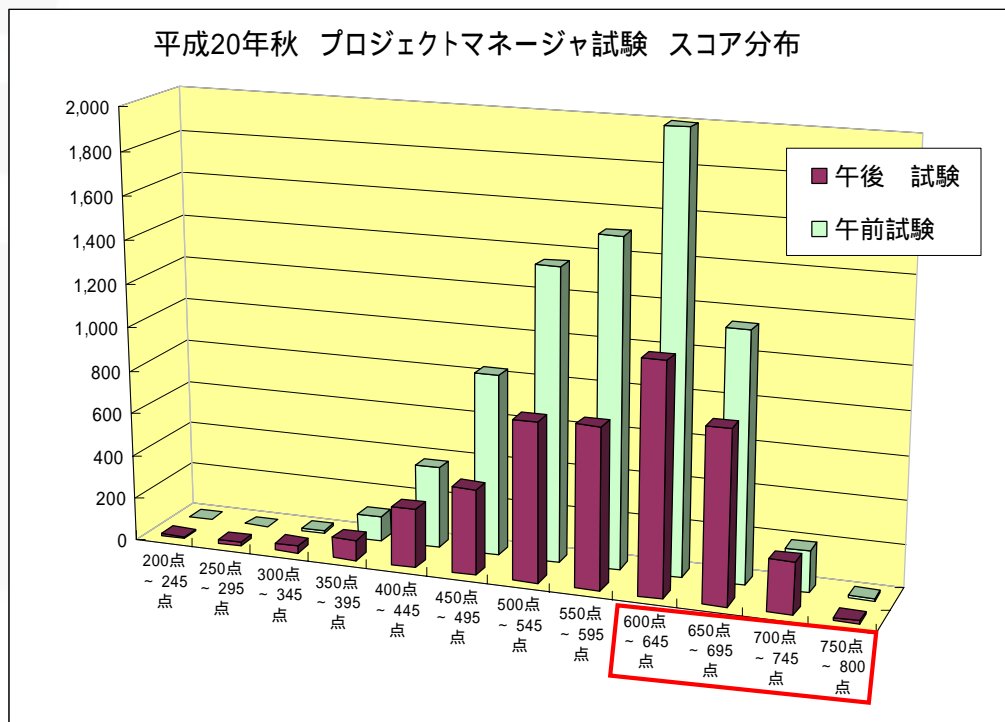
- 問1 情報システム開発プロジェクトにおける利用部門の参加について
- 問2 情報システム開発における問題解決について
- 問3 情報システム開発プロジェクトの完了時の評価について

発表されたプロジェクトマネージャ試験のスコア分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

[平成 20 年秋 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布]

スコア	午前試験	午後 試験	午後 試験	合格者
200点 ~ 245点	3	11	評価 D 156	
250点 ~ 295点	1	19		
300点 ~ 345点	12	35		
350点 ~ 395点	115	95	評価 C 197	
400点 ~ 445点	378	274		
450点 ~ 495点	839	396		
500点 ~ 545点	1,354	734	評価 B 670	
550点 ~ 595点	1,511	742		
600点 ~ 645点	2,186	1,061		
650点 ~ 695点	1,148	793	評価 A 1,061	1,061
700点 ~ 745点	192	238		
750点 ~ 800点	12	14		
計	7,751	4,412		
対前試験比率		56.9%	47.2%	50.9%
午前免除者(概数)	874			

合格者数	採点者数の割合	合格者数との差
午前 600 以上合計	3,538 45.6%	2,477
午後 600 以上合計	2,106 47.7%	1,045
午後 -A 評価	1,061 50.9%	0



ここで、午前試験で合格基準点のスコア 600 以上の方が 3,538 人(受験者の 45.6%)いますが、同じ試験問題のシステムアナリスト受験者では 67.4%の方が 600 以上なので、それに比べるとやや低い値といえます。次に午後 試験で 600 以上を超えている人が 2,106 人(同 47.7%)、午後で合格の評価 A の人(合格者)は 1,061 人(同 50.9%)でした。午後 の論文試験で評価 A になる人は以前 4 割前後ぐらいでしたので、今回高めの合格率になった理由は論文の評価が全般によかったためと予想されます。新試験でも論文試験はありますので、午後 の論文対策はしっかり準備して、試験に臨む必要があります。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、今後の対策として、午前試験で出題される専門知識の理解度をまず上げ、解答テクニックをしっかり身につけてください。論文は通信教育で実

施している添削サービスが効果的です。

(今回合格された方へ)

合格された方で来春のデータベーススペシャリスト、システム監査技術者などの試験を受けられる方は、試験の出題範囲が大きく変わりますので、早めに学習することが必要です。高度系試験は、すべての午前試験が同じで、試験範囲に追加された分野として、情報に関する「基礎理論」や技術系の「データベース、ネットワーク」などがあります。これらの内容については、早めに学習して出題ポイントをおさえる必要があります。

また、午後論文試験であるシステム監査技術者を受験される予定の方は、合格するために第三者の論文添削が欠かせません。弊社の通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックでは新試験制度に合わせて、通信教育で使用する基本的なテキスト、予想問題集、本試験問題集、午後試験対策本などを新たに改訂しました。これらの書籍は書店でもご購入いただけます。また、試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」は好評を頂いており、特に一人で試験勉強がなかなか進まない方に、ぜひお勧めしたい講座です。

通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト(論文あり試験では添削含む)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習時間3か月の「短期コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

(今回残念ながら不合格だった人)

今回の午前試験のスコアが500点~595点の人は、合格スコアの600までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。

なお、次回から新試験制度になり、試験の出題範囲が大きく変わりますので、早めに学習することが必要です。高度系試験は、すべての午前試験が同じで、試験範囲に追加された分野として、情報に関する「基礎理論」や「サービスマネジメント」、「システム監査」、「システム戦略・経営戦略」などがあります。これらの内容については、早めに学習して出題ポイントをおさえる必要があります。

また、午後試験のスコアが600点に満たなかった人は、確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたうえで問題を解く訓練を行うのが有効です。

この他、アイテックで出版している「応用情報・高度に出る午前共通知識問題」や「予想問題集」、試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」、通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト(論文あり試験では添削含む)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習時間3か月の「短期コース」、専門分野と午後・論文対策に絞り込んだ「専門+午後コース」など、教育メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

(以上)